

民報 あばしり

NO. 982

2014/8/24

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二一四四五八
F四三二一四四五七

戦争する国づくり 許さない!

オホーツクキャラバン

日本共産党北見地区委員会が、8月7日から「戦争する国づくり許さない!オホーツクキャラバン」を行いました。

10日夕方、網走市に入り、つくしヶ丘3丁目市営住宅、ベーシック駒場店、道営住宅サンリッチ・ヴィラ、大曲2丁目市営住宅で宣伝を行いました。菅原まこと、飯田・松浦の両市議と菊地宏党市副委員長(市議予定候補)が弁士を努めました。

「日本は、アフガンやイラク戦争など、アメリカが引き起こした戦争に自衛隊を派遣してきたが、武力行使はしなかった。それは戦争を放棄した憲法9条があるから。自衛隊員が外国の人々を殺し、殺されることになる。再び若者を戦場に送らせてはならない」と呼びかけました。ベランダや窓を開けて最後まで演説を聞いてくれる方もいました。

今、安倍内閣の暴走に対して「なぜ、そんなに急ぐのか、国会で議論もしないで閣議だけで決めてしまうのはおかしい」など、危惧する声が渦巻いています。



二度と戦争はしない 不戦の誓い!

終戦記念日の街頭宣伝
日本共産党網走市委員会は、毎年行っている8月15日、69回目を迎えた終戦記念日にあたって街頭宣伝を行いました。

飯田・松浦両議員と菊地宏市議予定候補が、「日本は、第2次世界大戦でアジア諸国民2000万人の命を奪い、



310万人の国民を犠牲にした。その反省から平和憲法ができた。若者を再び戦場に送らないため、力を合わせましょう」と市内各所で訴えました。

いよいよ東奔西走 敏勝

69回目の終戦記念日を15日に迎え、議員になってから一回も欠かさず街頭演説を行って16年経ちました。

今年も安倍政権の憲法違反の集団的自衛権行使による「戦争する国づくり」が現実になってきたので、演説にも一層の危機感がにじみできました。7年後の東京五輪に浮かれ気味のスポーツ界も、あの対戦中は戦争最優先で、甲子園球児をはじめ多くのアスリートは戦地に駆り出され、南海の海もずくと消え多大な犠牲を出した事を忘れてはいけません。戦争の悲惨な実態を知ろうとしない安倍政権には退場していただくしかありません。

菊地ひろし まっしぐら。

「共産党はよく署名を集めているね、そんなの何かの役に立っているの?」と聞かれることがあります。署名のひとつひとつが国民の意思表示であり、国政に届ける確実な方法です。無駄と思ふ時もあるかもしれませんが、そんなことはありません。又、私が署名活動のなかで楽しみにしているのは、皆さんの意見や要望、身近な問題などで対話になることです。

このあいだは、子供たちが減ったら保育所・幼稚園はどうなるの、土砂災害警戒区域指定にされたけど大丈夫か、など、どの問題も難しい課題ばかりですが、市政に生かす解決しなければなりません。私の宿題は増えるばかりです。

松浦有戦モ せとせ

8月17日の朝、しんぶん赤旗の日記紙配達をしていると、キリスト教系のラジオ番組の中で安倍自

公政権の「集団的自衛権行使容認」について批判していました。

「憲法上許されないとされてきた集団的自衛権行使を内閣が勝手に容認してしまうことなどあってはならない。現政権のおこなっていることは、自衛隊員が戦場に送られる必要がある」と厳しく指摘していました。久しぶりにラジオを聞いていて、スッキリする思いをしました。

安倍内閣への批判が日々強まっていることを実感しています。これからが大事な闘いです。

流水

「ローマの休日」の主人公アン王女にふんしたオードリー・ヘップバーン。ローマを舞台に新聞記者と「トレビの泉」や

「ローマの休日」の主人公アン王女にふんしたオードリー・ヘップバーン。ローマを舞台に新聞記者と「トレビの泉」や、真実の口」と、心の赴くまま名所を巡るひと時、身分の違いを超えて展開されるラブストーリー。その魅力は今も新鮮であり、永遠であり続けている。●ヘップバーンの母はオランダの男爵家出、父はアイルランド系実業家だった。第2次世界大戦が起ころ、父の失踪とドイツ軍の侵攻。ユダヤ系が祖先にいと噂を立てられ、おじといとは処刑。ナチスに苦しめられながら大好きなバレエを辞めず、反ナチをかまくまったりするレジスタンスだった。過酷な経験は、後に「アンネ・フランクの日記」を朗読、ユニセフ慈善コンサート、そしてロンドン交響楽団と共演。ヘップバーンは子ども達に寄り添い2度と戦争をしてはならないと願っていた。その思いを偲んで再度映画を観る予定。●8月10日(日)の「うた声喫茶」は、23人の北海道合唱団の方々が、矢白別の平和盆踊りに参加した後に、網走の歌声喫茶に合流し、喫茶店「ちばしり」があふれるほどの人で、馴染みの曲を歌い和んだ。進行のMさんは「3・11震災、8月6日・9日原爆、そして終戦記念日の15日と繋がる鎮魂歌、花は咲く」で最後をどうぞ。うた声が生きる力、連帯となって広がった(て)